



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-283930

(43)公開日 平成7年(1995)10月27日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 4 N 1/32  
1/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z

1 0 6 Z

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平6-70473

(22)出願日

平成6年(1994)4月8日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 若林 芳政

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式  
会社内

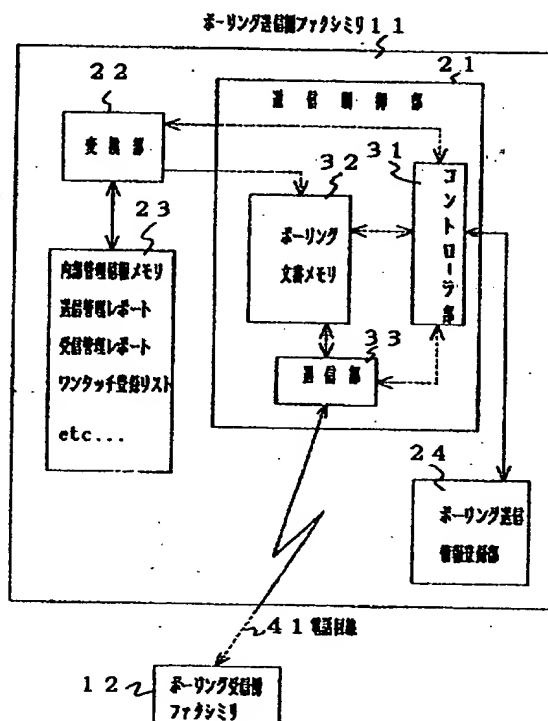
(74)代理人 弁理士 熊谷 雄太郎

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57)【要約】

【目的】 ポーリング送信機能を有するファクシミリ装置において、内部管理情報の送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなどの中から1つまたは複数を選択して、ポーリング送信する。

【構成】 ポーリング送信側ファクシミリ装置11において、ポーリング送信情報登録部24に、パスワードとポーリング文書の登録情報(送信する文書がどの文書であるか)が記録される。ポーリングの要求があると通信制御部21は、ポーリング送信情報登録部24で確認をおこない内部管理情報が登録されていれば、変換部22にポーリング文書作成要求を送る。変換部22は、内部管理情報メモリ23のデータをポーリング文書メモリ32に展開した後に、通信部33より受信側ファクシミリ装置12へポーリング送信する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ポーリング送信機能を持ち送信文書を蓄積可能なファクシミリ装置において、内部管理情報の送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなどの中からいずれか1つまたは複数を選択してポーリング送信文書として登録する登録手段と、前記登録手段に前記内部管理情報を登録したときに前記内部管理情報をポーリング送信する送信手段とを有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 前記登録手段は、前記内部管理情報の送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなどの中からいずれか1つまたは複数を選択制御する通信制御部と、該通信制御部により選択されたポーリング送信情報及びポーリングパスワードを登録する登録部とを有することを更に特徴とする請求項1に記載のファクシミリ装置。

【請求項3】 前記通信制御部は、前記内部管理情報の選択制御及びポーリングパスワードの確認並びにポーリング送信文書として前記登録部に登録されている文書が何であるかの確認制御を行うコントローラ部と、ポーリング文書を格納するポーリング文書メモリと、通信部とを有することを更に特徴とする請求項2に記載のファクシミリ装置。

【請求項4】 前記送信手段は、内部管理情報が格納された内部管理情報メモリと、前記登録手段に前記内部管理情報が登録されたときに前記内部管理メモリから該当する文書を引き出して内部管理情報をポーリング送信文書に変換し該ポーリング送信文書をポーリング文書メモリに複写する変換部と、前記ポーリング文書メモリから出力されるポーリング送信文書をポーリング送信する通信部とを有することを更に特徴とする請求項1に記載のファクシミリ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ポーリング送信機能を有するファクシミリ装置に関し、特に、内部管理情報（送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなど）のポーリング送信機能に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、この種のファクシミリ装置では、異なるファクシミリ装置側において前記ファクシミリ装置の内部管理情報を知りたい場合には、前記ファクシミリ装置側で人手を介して必要な内部管理情報を一度出力した後に再度蓄積させ、異なるファクシミリ装置側に送信していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上述した従来のファクシミリ装置では、自動で他のファクシミリ装置へ内部管理情報を送信することが困難なために、人手を介する必要が生じる欠点があった。

【0004】 本発明は従来の上記実情に鑑みてなされたものであり、従って本発明の目的は、従来の技術に内在する上記欠点を解消することを可能とした新規なファクシミリ装置を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成する為に、本発明に係るファクシミリ装置は、内部管理情報の送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなどの中からいずれか1つまたは複数を選択してポーリング送信文書として登録する手段と、前記ポーリング送信文書に前記内部管理情報を登録したときに前記内部管理情報をポーリング送信する手段とを備えて構成される。

## 【0006】

【実施例】 次に、本発明をその好ましい一実施例について図面を参照しながら具体的に説明する。

【0007】 図1は本発明の一実施例を示すブロック構成図である。

【0008】 図1を参照するに、本発明に係るファクシミリ装置は、通信制御部21と、変換部22と、内部管理情報メモリ23と、ポーリング送信情報登録部24とを備えて構成されている。また、通信制御部21は、コントローラ部31と、ポーリング文書メモリ32と、通信部33とから構成されている。

【0009】 次に本発明の動作の流れを図1を参照して説明する。

【0010】 まず、ポーリング送信側ファクシミリ11において、ポーリング送信の登録をおこなう。このとき、ポーリング送信文書を新たに蓄積させるのではなく、内部管理情報（送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなど）のいずれか1つまたは複数を選択してポーリング送信するように、ポーリング送信情報登録部24に登録する。さらに、ポーリングパスワードの登録もおこなう。

【0011】 ポーリング受信側ファクシミリ12は、ポーリング送信側ファクシミリ11の内部管理情報を知るために、ポーリング送信側ファクシミリ11へポーリング送信を要求する。

【0012】 ポーリング送信を要求されたポーリング送信側ファクシミリ11の通信制御部21は、ポーリングパスワードの確認と、ポーリング送信文書として登録されている文書が何であるかの確認要求をポーリング送信情報登録部24へ送る。該当するポーリング送信文書が内部管理情報のときには、通信制御部21のコントローラ部31は、該当する内部管理情報をポーリング送信文書に変換する要求を変換部22に送る。変換部22は、コントローラ部31から要求を受けて、内部管理情報メモリ23から該当する文書をポーリング文書メモリ32に複写する。コントローラ部31は、ポーリング文書メモリ32内の文書の送信指示を通信部33に送る。通信

部 3 3 は、ボーリング受信側ファクシミリ 1 2 へボーリング送信を行う。

【0013】次に、図 2 の動作フローチャートを参照しながら本発明の動作を詳細に説明する。

【0014】図 2 を参照するに、先ずステップ S 1 にてボーリング送信情報登録部 2 4 にボーリングパスワードを登録する。次にステップ S 2 によりコントローラ部 3 1 がボーリング文書の選択をおこない、それによってステップ S 3 の内部管理情報が選択される。

【0015】次に、ステップ S 4 で、コントローラ部 3 1 によるボーリング送信文書の選択がおこなわれる。このボーリング送信文書の選択は、

- ①. 送信管理レポート
- ②. 受信管理レポート
- ③. ワンタッチ登録リスト

.....

の中から 1 つまたは複数個の選択により実行される。このボーリング送信文書の選択は、例えばキーボード等の入力装置により所望の内部管理情報を入力することによって実行することができる。

【0016】このボーリング送信文書の選択は、本発明の最大の特徴である。

【0017】この内部管理情報の選択は、次のようなものである。

【0018】1. 時刻指定送信あるいは再発呼待ち文書など即時に送信されない送信文書を残している場合→送信管理レポート

外出などのために実際に送信を行ったファクシミリが離れた場所に存在する時でも、他のファクシミリから送信管理レポートを出力して送信結果の確認が可能になる。

【0019】2. 代替ファクシミリとして使用している場合→受信管理レポート

代替元ファクシミリから、代替ファクシミリの受信履歴の確認が可能になる。

【0020】3. ワンタッチ登録の内容をネットワーク内で共通に使用したい場合→ワンタッチ登録リスト  
ネットワーク内のファクシミリのワンタッチ登録リストを参照することができる。

【0021】続いて、ステップ S 5 により外部ファクシミリ (図 1 に示された本実施例においてはボーリング受信側ファクシミリ 1 2) によるボーリング送信の要求がなされる。

【0022】次にステップ S 6 により、選択された内部管理情報の現在の情報がボーリング文書メモリ 3 2 へ展

開される。このステップ S 6 では、コントローラ部 3 1 は、選択した内部管理情報を変換部 2 2 によりボーリング送信文書に変換させてボーリング文書メモリ 3 2 に格納する。

【0023】次いで、ステップ S 7 においてボーリング文書メモリ 3 2 に格納されたボーリング送信文書は、通信部 3 3 に出力され、通信部 3 3 からボーリング受信側ファクシミリ 1 2 に送信される。

【0024】ステップ S 2 でステップ S 8 のノーマルが選択された場合には、ステップ S 9 にてセットされたボーリング文書は、ボーリング文書メモリ 3 2 に展開され、ステップ S 5、S 6、S 7 を介して内部管理情報が選択された場合と同様にボーリング受信側ファクシミリ 1 2 にボーリング送信がなされる。

【0025】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のファクシミリ装置を用いることにより、内部管理情報の送信管理レポート、受信管理レポート、ワンタッチ登録リストなどの中からいずれか 1 つまたは複数を選択してボーリング送信文書として登録できるために、異なるファクシミリ装置から、必要な内部管理情報だけを、人手を介さずにボーリング通信で入手できるという効果が得られる。

【0026】一例として、時刻指定送信あるいは再発呼待ちなどで即時送信されない送信文書が確実に送信されたかを確認したいときに実際に送信をおこなったファクシミリ装置が近くにいる場合に、異なるファクシミリ装置から内部管理情報 (この場合、送信管理レポート) をボーリング受信することで、人手を介さずに容易に送信確認をおこなうことができるなどの効果が挙げられる。

【図面の簡単な説明】

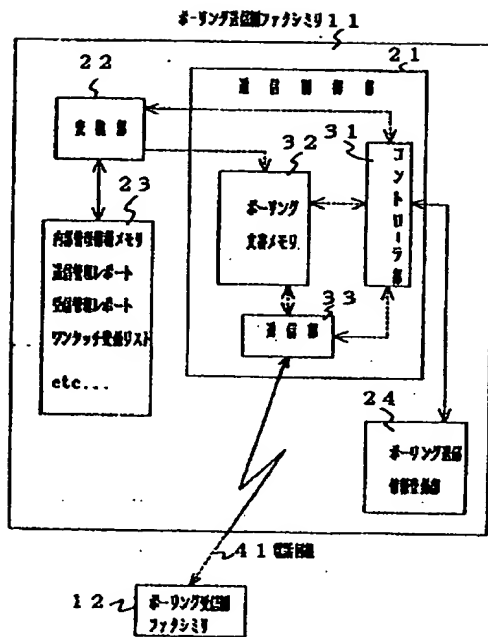
【図 1】本発明の一実施例を示すブロック構成図である。

【図 2】本発明の動作フローの一例を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 1 …ファクシミリ (ボーリング送信側)
- 1 2 …ファクシミリ (ボーリング受信側)
- 2 1 …通信制御部
- 2 2 …変換部
- 2 3 …内部管理情報メモリ
- 2 4 …ボーリング送信情報登録部
- 3 1 …コントローラ部
- 3 2 …ボーリング文書メモリ
- 3 3 …通信部
- 4 1 …電話回線

【図1】



【図2】

